

IV 主な医薬品とその作用

61. 次の成分を含むかぜ薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

9錠中

アセトアミノフェン	900mg
クレマスチンフマル酸塩	1.34mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24mg
ノスカピン	48mg
dℓ-メチルエフェドリン塩酸塩	60mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	240mg
無水カフェイン	75mg
ベンフォチアミン（ビタミンB ₁ 誘導体）	24mg

- a クレマスチンフマル酸塩は、アドレナリン作動成分である。
- b ジヒドロコデインリン酸塩は、気管支拡張成分である。
- c グアヤコールスルホン酸カリウムは、去痰成分である。
- d 無水カフェインは、解熱鎮痛成分の配合に伴い、その鎮痛作用を補助する目的で配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

62. かぜ（感冒）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 季節や時期等によって原因となるウイルスや細菌の種類は異なる。
- b 非感染性であるアレルギーや冷氣、乾燥は、かぜの要因にはあたらない。
- c 冬場に、発熱や頭痛を伴って悪心・嘔吐や、下痢等の消化器症状が現れた場合は、かぜではなく、ウイルス性胃腸炎である場合が多い。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

63. 次の記述は、解熱鎮痛薬に関するものである。（ ）にあてはまる字句として、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

解熱鎮痛薬の有効成分によりプロスタグランジンの産生が（ a ）されると、胃酸分泌が（ b ）するとともに胃壁の血流量が（ c ）して、胃粘膜障害を起こしやすくなる。

	a	b	c
1	増強	増加	低下
2	抑制	低下	低下
3	増強	増加	増加
4	抑制	低下	増加
5	抑制	増加	低下

64. 解熱鎮痛薬に用いられる生薬成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ジリュウのエキスを製剤化した製品は、「感冒時の解熱」が効能・効果となっている。
- b シャクヤクは、発汗を促して解熱を助ける作用を期待して用いられる。
- c ショウキョウは、鎮痛鎮痙作用を示し、内臓の痛みにも用いられる。
- d ボウイは、鎮痛、尿量増加（利尿）等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

65. 解熱鎮痛薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- b サザピリンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- c アスピリンは、現在、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。
- d イブプロフェンは、アスピリンに比べて胃腸への悪影響が少ないことから、15歳未満の小児に対して、一般用医薬品として使用することができる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

66. 眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、脳内のヒスタミン濃度を低下させることで眠気を促す。
- b ブロモバレリル尿素は、少量でも眠気を催しやすい。
- c 加味帰脾湯は、体力中等度以上の人に適すとされる。
- d 抑肝散は、心不全を引き起こす可能性がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

67. めまい及び乗物酔い防止薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a めまいは、体の平衡を感知して、保持する機能（平衡機能）に異常が生じて起こる症状であり、中枢神経系の障害など、様々な要因により引き起こされる。
- b 副作用が強く現れるおそれがあるので、乗物酔い防止薬とかぜ薬やアレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）等との併用は避ける必要がある。
- c 乗物酔い防止薬に3歳未満向けの製品はない。
- d 乗物の運転操作をするときは、乗物酔い防止薬の使用を控える必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

68. 小児の疳、小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状が、成長に伴って自然に改善することはまれである。
- b ジャコウは、緊張や興奮を静め、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- c 漢方処方製剤は、1歳未満の乳児には使用しないこととなっている。
- d 鎮静と中枢刺激のように相反する作用を期待する生薬成分が配合されている場合もあるが、身体の状態によってそれらに対する反応が異なり、総じて効果がもたらされると考えられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

69. 咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 甘草湯は、短期間の服用に止め、連用しないこととされている。
- b 柴朴湯は、むくみの症状のある人に適すとされる。
- c 麦門冬湯は、水様痰の多い人には不向きとされる。
- d 半夏厚朴湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、炎症を和らげ、特に小児喘息や気管支喘息に用いられる。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

70. 鎮咳去痰薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a デキストロメトルファン臭化水素酸塩は、気道粘膜からの粘液の分泌を促進することを目的として配合される。
- b グアイフェネシンは、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- c ノスカピンは、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える。
- d グリチルリチン酸二カリウムは、気道の炎症を和らげる。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

71. 口腔咽喉薬・含嗽薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a トローチ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにして使用する。
- b 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が高いほど十分な効果が得られるとされる。
- c ハッカは、咽頭粘膜をひきしめる（収斂）作用により炎症の寛解を促す効果を期待して用いられる。
- d トラネキサム酸は、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	正

72. 健胃薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a センブリは、キンポウゲ科のセンブリの開花期の全草を基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b ケイヒは、クスノキ科のシンナモムム・カッシアの樹皮又は周皮の一部を除いたものを基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c リュウタンは、クマ科のヒグマその他近縁動物の胆汁を乾燥したものを基原とする生薬で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- d 乾燥酵母やカルニチン塩化物は、味覚や嗅覚に対する刺激以外の作用による健胃成分として配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

73. 瀉下薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a セナは、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに、糞便を柔らかくすることを目的として用いられる。
- b ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。
- c ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。
- d ヒマシ油は、比較的作用が穏やかなため、主に3歳未満の乳幼児の便秘に用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

74. 止瀉薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 炭酸カルシウムは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として用いられる場合がある。
- b ビスマスを含む成分は、収斂作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つとされるため、細菌性の下痢や食中毒のときに使用するとよい。
- c ロペラミド塩酸塩は、中枢神経系を抑制する作用があり、副作用としてめまいや眠気が現れることがある。
- d ベルベリンは、ベルベリン塩化物、タンニン酸ベルベリンに含まれ、抗菌作用のほか、抗炎症作用も併せ持つ。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	正

75. 次の成分を含む胃腸薬に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

1日服用量中

スクラルファート水和物	1 5 0 0 m g
ケイ酸アルミン酸マグネシウム	1 1 2 5 m g
ロートエキス	3 0 m g
アズレンスルホン酸ナトリウム	6 m g
L-グルタミン	4 0 0 m g
合成ヒドロタルサイト	2 7 0 m g

- a スクラルファート水和物は、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として配合されている。
- b 合成ヒドロタルサイトは、炭水化物、脂質、タンパク質、繊維質等の分解に働く酵素を補うことを目的として配合されている。
- c 授乳中の人には、本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避ける必要がある。
- d 透析を受けている人では、本剤の服用を避ける必要がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

76. 胃腸鎮痛鎮痙薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 抗コリン成分は、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げることで効果を示す。
- b メチルベナクチジウム臭化物は、消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙の効果を期待して配合されている。
- c 鎮痛鎮痙作用を期待して、エンゴサク等の生薬成分が配合されている場合がある。
- d ブチルスコポラミン臭化物については、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	正

77. 浣腸薬及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 注入剤を使用する場合は、薬液の放出部を肛門に差し込み、薬液だまりの部分を絞って、薬液を押し込むように注入する。
- b 注入剤を半量使用する場合、残量を冷蔵保管することで安全に再利用できる。
- c ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果がある。
- d グリセリンは、血管修復作用を示すため、グリセリンが配合された浣腸薬は、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血している場合にしばしば使用される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

78. 強心薬に配合される生薬成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ロクジョウは、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- b 1日用量中センソ1mgを超えて含有する医薬品は、劇薬に指定されている。
- c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用があるとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

79. 高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ビタミンEは、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、過酸化脂質分解作用を有する。
- b リノール酸は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える効果を期待して用いられる。
- c パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
- d ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

80. 貧血及び貧血用薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 鉄分の摂取不足を生じると、初期段階からヘモグロビン量が減少するため、ただちに動悸、息切れ等の貧血の症状が現れる。
- b 消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つ目的で、葉酸が配合されている場合がある。
- c 骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d ビタミンB₁₂が不足して生じる巨赤芽球性貧血は、悪性貧血と呼ばれている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

81. 外用痔疾用薬の配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a クロタミトンは、痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として配合される。
- b タンニン酸は、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として配合される。
- c イソプロピルメチルフェノールは、血管収縮作用による止血効果を期待して用いられる。
- d プレドニゾロン酢酸エステルが配合された坐剤及び注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

82. 次の記述に当てはまる漢方処方製剤として、**最も適切なもの**を1つ選びなさい。

体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

- 1 八味地黄丸
- 2 竜胆瀉肝湯
- 3 猪苓湯
- 4 牛車腎気丸

83. 女性の月経に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 女性の月経は、子宮の内壁を覆っている膜（子宮内膜）が剥がれ落ち、血液（経血）と共に排出される生理現象である。
- b 月経の周期には、視床下部や下垂体で産生されるホルモンと、子宮で産生される女性ホルモンが関与している。
- c 月経前症候群は、加齢とともに女性ホルモンの分泌が減少していき、やがて月経が停止して、妊娠可能な期間が終了することをいう。
- d 更年期においては、月経周期が不規則になるほか、不定愁訴として血の道症の症状に加え、冷え症、腰痛等の症状が起こることがあり、こうした症候群を更年期障害という。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

84. 次の漢方処方製剤のうち、「女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和」に使用されるものとして、**最も適切なもの**を1つ選びなさい。

- 1 防風通聖散
- 2 温清飲
- 3 乙字湯
- 4 六味丸

85. アレルギーの治療に使用される漢方処方製剤に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 小青竜湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの蕁麻疹、口内炎、皮膚の痒みに適すとされている。
- b 消風散は、体力中等度以上の人の皮膚疾患で、痒みが強くて分泌物が多く、ときに局所の熱感があるものの湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、水虫、あせもに適すとされている。
- c 十味敗毒湯は、比較的体力があるものの鼻づまり、蓄膿症、慢性鼻炎に適すとされている。
- d 辛夷清肺湯は、体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症に適すとされている。

- 1 (a、b)
- 2 (a、c)
- 3 (b、d)
- 4 (c、d)

88. 眼科用薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜囊の洗浄・消毒に用いられる。
- b パンテノールは、自律神経系の伝達物質の産生に重要な成分であり、目の調節機能の回復を促す効果を期待して用いられる。
- c プラノプロフェンは、結膜や角膜の乾燥を防ぐ効果を期待して用いられる。
- d 硫酸亜鉛水和物は、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

89. 外皮用薬に用いられるステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示し、細菌、真菌、ウイルス等による皮膚感染の副作用が現れることがある。
- b ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1g又は1mL中0.025mgを超えて含有する製品では、特に長期連用を避ける必要がある。
- c 主なステロイド性抗炎症成分として、デキサメタゾンやインドメタシン等がある。
- d 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎の緩和を目的とするものであり、体の一部分に生じた湿疹・皮膚炎等の一時的な皮膚症状には使用しない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

90. 肌の角質化、かさつき等を改善する外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 角質軟化薬のうち、いぼに用いる製品は、医薬品としてのみ認められており、原因となるウイルスに対する抑制作用を有している。
- b 尿素は、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- c サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- d イオウは、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善する。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

91. みずむし及びその治療薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a みずむしは、皮膚に常在する桿菌の一種が繁殖することが原因で起こる疾患である。
- b 皮膚が厚く角質化している部分には、クリーム剤が適している。
- c 患部が化膿している場合には、抗菌成分を含んだ外用剤を使用する等、化膿が治まってからみずむし治療薬を使用することが望ましい。
- d みずむしか湿疹かはっきりしない場合には、抗真菌成分が配合された医薬品を使用すべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	正

92. 歯痛薬又は歯槽膿漏薬の配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a オイゲノールは、齲蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として配合されている。
- b カルバゾクロムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑えることを目的として配合されている。
- c カミツレは、キク科のカミツレの頭花を基原とする生薬で、抗炎症、抗菌などの作用を目的として配合されている。
- d セチルピリジニウム塩化物は、冷感刺激を与えて歯周組織をひきしめることで、炎症を和らげることを目的として配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

93. 禁煙補助剤及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 咀嚼剤の禁煙補助剤は、唾液が十分に分泌されるようにしっかり噛むことが必要である。
- b 禁煙補助剤は、長期間にわたって使用されるべきものでなく、添付文書で定められた期限を超える使用は避けるべきである。
- c 禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めたうえで使用する。
- d ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示す。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

94. ビタミン成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a ビタミンB₁は、下垂体や副腎系に作用してホルモン分泌の調節に関与するとされている。
- b ビタミンB₂は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- c ビタミンB₆は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- d ビタミンB₁₂は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

95. 滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す働きを期待して用いられる。
- b 補中益気湯は、体力虚弱で元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、寝汗、感冒に適すとされる。
- c システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあるとされる。
- d ヘスペリジンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

98. 衛生害虫の防除、殺虫剤・忌避剤及びその配合成分に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a シラミの防除には、医薬品による方法以外に、散髪や洗髪、入浴による除去、衣服の熱湯処理などの物理的方法もある。
- b ディートを含有する忌避剤（医薬品及び医薬部外品）は、生後6ヶ月未満の乳児については、顔面への使用を避け、1日の使用限度（1日2回）を守って使用する必要がある。
- c ペルメトリンは、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害し、殺虫作用を示す。
- d プロポクスルは、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合して、その働きを阻害し、殺虫作用を示す。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

99. 尿糖・尿タンパク検査に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 検査薬を長い間尿に浸していると検出成分が溶け出してしまい、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 検査結果に影響を与える要因として、採尿に用いた容器の汚れがある。
- c 尿糖検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、尿タンパク検査の場合、食後2～3時間を目安に採尿を行う。
- d 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	正

100. 妊娠検査薬に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- b 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)の検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けない。
- c 高濃度のタンパク尿や糖尿の場合、非特異的な反応が生じて擬陽性を示すことがある。
- d 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

V 医薬品の適正使用と安全対策

101. 一般用検査薬の添付文書に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 人体に直接使用しない検査薬では、「販売名及び使用目的」が記載されている。
- b 妊娠検査薬では、専門家による購入者等への情報提供の参考として、検出感度も併せて記載されている。
- c 検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。
- d 人体に直接使用しない検査薬では、キットの内容及び成分・分量のほか、添加物として配合されている成分も記載しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

102. 次の医薬品の適正使用情報に関する記述のうち、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 一般用医薬品の添付文書の記載において、販売名に薬効名が含まれているような場合には（例えば、「〇〇胃腸薬」など）、薬効名の記載は省略されることがある。
- 2 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- 3 医薬品の添付文書は、臨時的な改訂を除き、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、1年に1回定期的に改訂されている。
- 4 医薬品医療機器等法第52条の規定により、医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が義務づけられている。

103. 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品を使用した人が医療機関を受診する際には、その添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。
- b 消費者相談窓口として、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の担当部門の電話番号、受付時間等を記載しなければならない。
- c 効能又は効果については、「適応症」として記載されていることがある。
- d 医薬品の使用のみに頼ることなく、日常生活上、どのようなことに心がけるべきかなど、症状の予防・改善につながる事項について記載されていることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

104. 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品においては、使用期限の表示について法的な義務はない。
- b 消防法や資源の有効な利用の促進に関する法律等、医薬品医療機器等法以外の法令に基づく表示もされていることがある。
- c 配置販売される医薬品の使用期限は、「配置期限」として記載されている。
- d 1回服用量中0.1mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が表示されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

107. 医薬品医療機器等法第68条の10第2項の規定により、医薬品による副作用等が疑われる場合の報告に関する記述のうち、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等（健康被害を生じた本人に限らない）に医師の診断書の提出を求め、医薬品安全性情報報告書に添付した上で報告しなければならない。
- b 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても、報告の対象となり得る。
- c 身体に変調を来すが入院治療を必要としない程度の健康被害については、報告の対象とならない。
- d 報告様式は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

108. 企業からの医薬品の副作用等の報告制度に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものについては、承認後の一定期間（概ね8年）、安全性と有効性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。
- b 製造販売業者には、その製造販売した医薬品について、承認を受けた効能若しくは効果を有しないことを示す研究報告を知ったときは、厚生労働大臣への報告が義務づけられている。
- c 製造販売業者には、その製造販売した医薬品の使用によるものと疑われる感染症の発生を知ったときは、厚生労働大臣への報告が義務づけられている。
- d 登録販売者は、製造販売業者が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

109. 医薬品副作用被害救済制度に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 給付の種類としては、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料がある。
- b 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられる。
- c 医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図るための制度である。
- d 健康被害が、医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項については、薬事・食品衛生審議会の諮問・答申を受ける。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	正

110. 医薬品等に係る安全性情報等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に作成され、厚生労働省から医療機関や薬局へ直接配布されることとされている。
- b 安全性速報は、都道府県からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- c 独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページでは、添付文書情報、厚生労働省より発行される「医薬品・医療機器等安全性情報」等の情報が掲載されている。
- d 緊急安全性情報は、A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。

1 (a、b)	2 (a、c)	3 (b、d)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

111. 次の一般用医薬品の安全対策に関する記述のうち、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で死亡例が発生し、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- 2 一般用かぜ薬の使用によると疑われるライ症候群の発生事例が、2003年5月までに26例報告されたことを受け、厚生労働省は一般用かぜ薬全般の使用上の注意の改訂を指示した。
- 3 慢性肝炎患者が、小柴胡湯を使用して緑内障を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至ったことから、1996年3月、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、緊急安全性情報の配布を指示した。
- 4 塩酸フェニルプロパノールアミンは、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていたが、間質性肺炎の発生リスクとの関連性が高いことから、プソイドエフェドリン塩酸塩等への切替えが行われた。

112. 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 特に、青少年では、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が十分できているため、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することはない。
- c 登録販売者においては、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- d 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動等が実施されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

113. 次の一般用医薬品の添付文書における使用上の注意に関する記述のうち、**誤っているもの**を1つ選びなさい。

- 1 サントニンは、肝機能障害を悪化させるおそれがあるため、「肝臓病の診断を受けた人」は、「相談すること」とされている。
- 2 ピレンゼピン塩酸塩水和物は、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。
- 3 プソイドエフェドリン塩酸塩は、肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があるため、「糖尿病の診断を受けた人」は、「使用（服用）しないこと」とされている。
- 4 ポビドンヨードは、血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため、「心臓病の診断を受けた人」は、「相談すること」とされている。

114. 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意に関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a フェルビナクが配合された外用鎮痛消炎薬は、喘息発作を誘発させるおそれがあるため、「ぜんそくを起こしたことがある人」は使用しないこととされている。
- b アスピリンは、胎児の動脈管の収縮等のおそれがあるため、「妊娠12週以内の妊婦」は使用（服用）しないこととされている。
- c アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、「6歳未満の小児」は服用しないこととされている。
- d 次没食子酸ビスマスは、吸収増大による精神神経系障害が生じるおそれがあるため、服用前後は飲酒しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	正	正

115. 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載される主な成分とその理由の組み合わせについて、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

<主な成分>		<理由>	
a	エチニルエストラジオール	—	妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって、胎児の先天性異常の発生が報告されているため
b	イブプロフェン	—	腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため
c	オキセサゼイン	—	妊娠中における安全性は確立されていないため
d	ジフェンヒドラミン塩酸塩	—	子宮収縮が促進されるため

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

116. 次のうち、一般用医薬品のスクラルファートが配合された胃腸薬の添付文書の「使用上の注意」の項目中に、「長期連用しないこと」の旨が記載される理由として、**正しいもの**を1つ選びなさい。

- 1 倦怠感が現れることがあるため
- 2 眠気を生じることがあるため
- 3 アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため
- 4 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため
- 5 鬱血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため

117. 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」と記載される主な成分として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a セトラキサート塩酸塩
- b アセトアミノフェン
- c トラネキサム酸（内服）
- d グリチルリチン酸二カリウム

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

118. 次のうち、一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」と記載される基礎疾患等と主な成分の組み合わせとして、**正しいもの**を1つ選びなさい。

<診断された基礎疾患等>	<主な成分>
1 胃・十二指腸潰瘍	— パパベリン塩酸塩
2 腎臓病	— メチルエフェドリン塩酸塩
3 甲状腺機能障害	— フェニレフリン塩酸塩
4 糖尿病	— ジプロフィリン

119. 次のうち、医薬品副作用被害救済制度の対象とならない医薬品として、**正しいものの組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 毛髪用薬（発毛剤）
- b 禁煙補助剤
- c ワセリン（日本薬局方収載医薬品）
- d 一般用検査薬

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

120. 医薬品PLセンターに関する記述の正誤について、**正しい組み合わせ**を1つ選びなさい。

- a 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、「医薬品PLセンター」への相談が推奨される。
- b 平成7年7月の製造物責任法の施行に伴い、厚生省（当時）が開設した。
- c 苦情を申し立てた消費者と製造販売元の企業との交渉において、公平・中立な立場で仲介や調整・あっせんを行う。
- d 医薬品、医薬部外品及び化粧品に関する苦情の相談を受け付けている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

